

## 総合理工学インスティテュート

## I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

**【2020年度大学評価結果総評】(参考)**

総合理工学インスティテュートにおける大学院教育のグローバル化推進および教員・教員組織は適切であり、研究成果の発信も滞りなく行われていると判断する。学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要があるとの評価結果に対し、IIST 在学学生を対象に授業・生活アンケートを実施し、その結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけた PDCA サイクルを仕組みとして確立する活動は高く評価できる。科目の充実については、既存の学びフィールドを見直し、需要の高いフィールドの新設を検討するという目標設定に対し、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を IIST 運営委員会内に設置し、フィールドの整備をスタートさせたことを高く評価する。一方で、データサイエンス分野については進捗がないため、今後の進展を期待したい。

「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設し科目整備を進めたことを評価する。発表論文を整理、リスト化した結果、101 件のジャーナル論文、学会発表を確認し、在学学生の研究レベルの高さが証明できたこと、特に3名の博士課程学生が博士号を取得したことは評価に値する。留学生の入学時研究能力のガイドラインを策定、修士課程にも同様のガイドラインを策定し、研究能力の高い学生を受け入れ、かつ恒常的定員確保可能としたことを評価する。英語講義・研究指導を担う教員増という目標に対し、国際化専念教員を1名採用したことを評価する。既存の6つの横断的学びのフィールドを見直し、留学生の学びのニーズに対応するインテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドの新設し、両フィールドを研究科横断的とした特色ある総合的な学びの環境を提供するという目標は極めて重要であり高く評価できる。

以上、IIST の自己点検・評価活動は全般的に適切であると判断できる。2019 年度末報告の改善策や今年度の目標を踏まえた、今後の進展を期待したい。

**【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】**

フィールド新設について、2020 年度直ちに新設に向けた具体策の策定には至らなかった。着実に計画を進めるため、フィールド新設にあたり、インテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。2020 年度インテリジェントロボティクス分野では修士課程で2名を受け入れ、データサイエンス分野は多くの受け入れ学生研究分野で何らかの関連を持っている。実質的に2フィールド分野を受け入れ重点分野として学生受け入れを重点的に進めてゆきたい。科目整備についても上記重点フィールドの充実を軸に IIST に必要な科目を系統的な見直しを 2021 年度進めてゆきたい。高い評価を頂いた在学学生研究成果の調査に加えて、2021 年度は卒業後の進路調査、在学学生については進路希望調査を実施した。

**【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】**

総合理工学インスティテュート（以降、IIST）は理工学・情報科学両研究科との密接な連携の下で少ない専任教員にも関わらず 2016 年度から修了生を輩出するまで着実に進捗し、昨年度からはさらにインテリジェントロボティクス（以下、“IR”と略記）とデータサイエンス（以下、“DS”と略記）の開設とともに学生の受け入れを開始するなど、国家戦略と整合した取り組みは高く評価できる。DS プロパーの学生入学を実現することが引き続きの課題として残されており、今後さらに両フィールドの人材育成・研究を向上するためには、IIST の実像が学外からも見えるような URL コンテンツの整備と広報活動が必要である。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・教育内容

**【2021年5月時点の点検・評価】**

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成してい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

るか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
<p><b>【根拠資料】</b> ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <p>・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A <b>B</b>
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b>                  インテリジェントロボティクスフィールド・データサイエンスフィールドの新設に向けた検討を始めている。フィールド新設にあたり、インテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。</p> <p><b>【博士】</b></p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <b>A</b> B
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士・博士共通】</b>                  IIST コロキウムを2回ウェビナー形式で実施した。IIST コロキウムを通じて研究交流を推進するとともに IIST への留学生受け入れに結び付けたい。                  ■2020年11月5日、ベトナム Thuyloi 大学(TLU)大学とインテリジェントロボット工学とメディア情報処理の進歩と題したウェビナーを実施し、互いに知能ロボット研究、AIを応用したメディア情報処理に関する研究紹介をデモンストレーションを交えて行った。(添付資料1参照)                  ■2021年3月17日チュニジア Univ. Carthage とインテリジェントロボット工学、機械学習、分散システムの今日的課題と題したウェビナーを実施し、互いに知能ロボット研究、データサイエンス・AI技術の経営工学・画像処理分野への応用について研究紹介を行った。(添付資料2参照)</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>添付資料 1 : TLU-IIST_Joint_Webinar2020</li> <li>添付資料 2 : Univ.Carthage-IIST_Joint_Webinar2021</li> </ul>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
<p>①学生の履修指導を適切に行っていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※履修指導の体制及び方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p> <p><b>【修士】</b> ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p> <p><b>【博士】</b> ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>添付資料 3: IIST2020 ガイダンスレジュメ</li> </ul>	
<p>③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</li> </ul>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【博士】</b></p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。	
<b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。	
<b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
<b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
修了生に対して就職・進学状況の調査、在学生については修了後の進路希望調査を実施した。その結果 IIST 生は研究指向が強く博士後期課程修了の学生については大学、研究機関、修士課程修了者については博士後期課程進学者が多いことが示された。（添付書類 4 参照）	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・添付書類 4 : IIST 修了学生の進路調査 2020 年度</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p><b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p><b>【修士・博士】</b> IIST 在学生の発表論文リストを作成、累積で 133 件のジャーナル 論文、学会発表を確認した。</p>	
<p><b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・添付書類 5: IIST 在学生の発表リスト(2020 年度)</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p><b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p><b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>昨年度、今後授業改善アンケートを実施し IIST 運営委員会で結果を共有し改善に向けた取り組みを行うことと定めた。9 月入学のため、春学期修了後次回アンケートを実施することとした。</p>	
<p><b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

IISTは、学生はいずれも順当に研究業績を残しており研究指導は十分な水準で進められている。大学院の一般研究科では研究業績が教育効果の有力な計測指標の一つとなるが、IISTの場合にはグローバル人材の育成も重要なミッションである。自己点検・評価では「国際誌・国際会議への発表」を主たる評価項目としているが、人材育成の観点からIIST修了生のキャリア追跡調査、IISTプログラムを履修した理工学・情報科学専修の大学院生のグローバル度を計測・評価することなども必要である。IIST修了あるいは専修の大学院生に進路希望や修了後の進路調査を実施していることは高く評価できる。成立後まもない現在の時点ではキャリア追跡に関する十分なデータがそろっておらず、今後もしばらく調査を継続しなければならないが、学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性についても検証できるように調査項目を検討する必要がある。IISTでは人材ネットワーク、留学生母国の諸機関との連携などによって教育プログラムの国際展開を図ることも重要である。例えば、修了生 Alumni の組織化などによりIISTへの継続的支援体制を構築することも検討の余地がある。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S A B
<p>【FD活動を行うための体制】※簡条書きで記入。                      情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※簡条書きで記入。                      ・</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。                      情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>③組織編制やFD等に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>
<p>※取り組みの概要を記入 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

IIST は、情報科学研究科で実施している中国模範的ソフトウェア学院連盟との DDP 協定による留学生の受け入れ体制の充実、理工学研究科における理系横断型セミナーの実施や留学生候補者への PR 強化などは IIST の支援につながる取り組みとして評価される。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

**【2021 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<p>3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。</p>
<p>①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>
<p>※取り組みの概要を記入 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>
<p><b>【根拠資料】</b></p>

**【この基準の大学評価】**

IIST は、COVID-19 感染拡大の状況下で一般研究科以上に IIST 独自の留学生や学生の海外派遣に対する特別の対応が求められ中、オンライン形式によるワークショップ開催などの対応を行っていることを確認することができた。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。	
	年度目標	留学生の学びのニーズに対応すべく懸案の2フィールドすなわち、インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (いずれも仮称) の新設を目指す。両フィールドを研究科横断的とし、特色ある 総合的な学びの環境を提供する。	
	達成指標	インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (仮称) の新設	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	フィールド新設にあたり、インテリジェンスロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。本年度インテリジェンスロボティクス分野では修士課程で2名の受け入れ、データサイエンス分野は多くの研究分野で何らかの関連を持っている。
		改善策	本年度直ちに新しいフィールド新設の検討には至らなかったが左記「理由」で述べた方針に従い、着実にフィールドの新設に向かう準備を進めたい。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	—
	改善のための提言	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
	年度目標	IIST 科目の統廃合、新設により計画中的新設フィールドの対応を核とする英語科目の充実を図る。	
	達成指標	フィールドに対応した英語科目の体系化達成	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	C
		理由	留学生の学習ニーズを十分に把握した上で英語科目のカリキュラム改訂をする必要があり、具体的な成果は得られなかった。
		改善策	教育課程・教育内容に関する自己評価と関連させ新フィールド新設を念頭に抜本的な英語科目体系化を次年度より検討する。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	—
	改善のための提言	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成する。IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。	
	達成指標	刊行・発表論文数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	前年度に引き続き、研究論文数を調査し、在籍者の公表論文数 132 件と高水準にあることを確認した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
	所見	—	
	改善のための提言	—	
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。	
	年度目標	定員充足を達成しつつ、昨年度策定したガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別する。	
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	定員についてはコロナ禍で合格発表の後、辞退の学生が出るなどし、充足に至らなかった。質の高い学生の確保については、修士課程から博士課程に内部進学する学生が多く、達成できていると判断される。
		改善策	コロナ禍により入国困難な学生に対し、入学繰り延べの措置をとった。合格者の内一名はこの措置により来年度繰り延べ入学することとなった。
質保証委員会による点検・評価			
	所見	—	
	改善のための提言	—	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。	
	年度目標	教員へのヒアリング等を通じて英語対応科目 (IIST 学生からの受講希望により英語対応に切り替える) を拡充する。	
	達成指標	英語講義対応教員数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	英語講義担当教員数は限られているが、IIST 担当任期付き教員を専任教員とし、新たに IIST 担当任期付き教員を採用することとした。現在公募中であるが、この措置により来年度英語科目が拡充される。
		改善策	英語教育負担、受け入れ事務負担を軽減し、研究指導に専念できる環境を整備し受け入れ教員数を拡充する。
質保証委員会による点検・評価			

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		所見	－	
		改善のための提言	－	
No	評価基準	学生支援		
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる		
	年度目標	キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。		
	達成指標	進学・就職率		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	在学生について、進路希望のアンケート調査を行い就職希望動向を把握することができた。	
		改善策	アンケート調査を精査し、キャリアセンターと協働しキャリア支援のありかたを検討する。修了生の追跡調査を行い、進路希望との整合性を調査する。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		－		
		改善のための提言	－	
No	評価基準	社会貢献・社会連携		
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。		
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。		
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	在学生の論文発表数(132件)、博士受け入れ数5名の内3名が内部進学と多く、質の高い学生を受け入れている。	
		改善策	－	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		－		
		改善のための提言	－	
<b>【重点目標】</b>				
留学生の学びのニーズが高い新規フィールド（インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドいずれも仮称）の新設を目指す。				
<b>【目標を達成するための施策等】</b>				
IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語対応科目の統廃合を行うことにより系統的な授業カリキュラムを構築する。運営委員会及び必要に応じて特設委員会を設け研究科、専攻横断的な検討を進める。				
<b>【年度目標達成状況総括】</b>				
学修成果については、発表論文数の調査より、昨年度同様在学生は優れた研究成果を挙げており、評価される。このことは教育の質とともに、入学時、受け入れ教員との事前マッチングを丹念にとることにより入学者の質の担保ができてい				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ることが大きな要因と思われる。新たなフィールド新設については、新設予定フィールドの受け入れ実績を積みながら、着実に検討を進めることとした。計画が後退したかのように思われるが、拙速にフィールドを新設し受講者を欠く科目を設置することがないようにしたい。本年度新設予定であったインテリジェントロボティクスフィールドで2名（うち1名はコロナ禍のため入学時期を来年度に繰り延べる措置をとった）の修士学生を初めて受け入れたことにより新しい方針の第一歩を踏み出すことができたと思われる。英語科目の充実については、IIST 担当の任期付き教員を応用情報工学専攻の専任教員として採用、新たに後任を公募中であり、このことにより英語科目の充実を図ることができる。さらに、一般教員についても、研究指導に専念できる環境を整備し留学生受け入れを推進したい。本年度はコロナ禍で海外現地広報ができなかったか本年3月に実施したチュニジアとのウェビナー等を範として、オンラインによる広報、学術交流を推進したい。

**【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】**

IIST は、受け入れ時に学生と教員との match making がなされ、学生の質を確保している点は高く評価される。学生支援の年次目標・到達指標として「進学（就職率）」を設定しているが、IIST の人材育成ミッションを鑑みれば就職内容（グローバル的資質を活かした職域であるか）もさらに重要であり、修了生がグローバルな profession にどれだけ就いているかなどをあらわす到達指標に見直すことが推奨される。海外とのウェブ会合は時差の問題が軽微なアジア、オセアニアなどへの展開も視野に入れながら今後是非継続頂きたい。また、パンデミックを前提とする入試管理体制を検討することが必要である。一方、出口管理として、キャリアセンターとの連携の在り方について検討することが望ましい。

**IV 2021 年度中期目標・年度目標**

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査などから両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
	達成指標	インテリジェンスロボティクス・データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織の確定
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	新設を目指す2フィールドを念頭に IIST 科目のカリキュラム改編にむけた検討を行う。
	達成指標	IIST 設置科目の体系化
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
	達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

	年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	IIST 担当の任期付き教員を採用し、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
	達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる
	年度目標	昨年度実施した、終了後進路調査・進路希望調査にもとづき、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数

**【重点目標】**

IIST は 2016 年 9 月に文科省スーパーグローバル大学創生支援を受けて設立された。2023 年度に文科省の財政支援が打ち切りとなるため、現在それ以降継続可能かどうかの検討に入っている。IIST 継続に向けて自己点検評価を踏まえてこれまでの活動を総括することが本年度最重点目標である。

**【目標を達成するための施策等】**

これまでの活動実績を、学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から評価を行い、本プログラムが存続する価値があるかについて担当理事も含めて、教学・経営面から総合的に検討する。

**【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

IIST は、記載の通り、2023 年度以降の運用体制を視野に入れておくことは必要である。IIST は運用が始まったばかりであるため、IIST あるいは情報科学・理工学研究科だけではなく全学規模で 2023 年問題を議論しなければならない。IIST のままでさらに発展することが最も望ましい姿であるが、発展的に改組・再編する場合には IIST の資源を有効に利用し既存研究科内での国際的枠組みを充実する (ex. 外国人特別入試枠の増員、外国人教員枠の増員あるいは既存枠から外国人教員枠への転用、など)、あるいは新たな国際専攻を創設するなど、様々な選択肢を検討する必要がある。何故なら、SGU 申請時において本学は大学改革にまで踏み込んだグローバル人材育成プログラムの創出を宣言していたからである。この場合、HOSEI2030 との整合性が重要である。一方、SGU (タイプ B) はわが国の社会のグローバル化をけん引するという役割を担っていることから、現状のように留学生に偏重気味の研究教育だけでは従来の外国人特別枠を分離独立させたことと大差がない。日本社会に還元されるグローバル人材を育成することが視野におくことがより重要である。学修ポートフォリオなどによる学びの可視化も申請時に本学が標榜していた項目であり、今一度確認し実施していない場合には再考しなければならない。

**【大学評価総評】**

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

IIST は 2016 年以來、理工学・情報科学両研究科との密接な連携の下でグローバル人材育成が進められ、短期間のうちに修了生を輩出するまでに進捗していることは高く評価できる。昨年度より新規フィールドとして IR と DS を開設した点は時宜を得ており、学生の受け入れ実績も高く評価される。二度にわたるベトナム・チュニジアとのウェブ形式コロキウムの取り組みは高く評価され、今後は水平展開も含めて持続的に発展することが期待される。IIST 在学生の研究業績は 133 件の学術論文発表など高い水準にある。修了生はまだ少数であるため、修了後のキャリア追跡調査をしばらく継続して、学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性を検証することが望まれる。一方、IIST 専修生だけではなく IIST プログラムを履修した理工学・情報科学研究科の大学院生のグローバル度を計測・評価することも望ましい。外国人留学生の場合には修了後に IIST との関係が希薄になることが懸念されるため、IIST-Alumni を組織化し IIST への継続的支援体制を構築すれば、人的な国際ネットワークを維持しグローバル人材を継続的に育成できる可能性がある。DS フィールドへの学生入学と教育は今後の継続的課題であり何らかの対策を講ずることが必要である。いずれの研究フィールドについても、より多くの学生を集め海外組織とのネットワークを構築するためには、URL の整備や多角的な広報を通して IIST の実像を可視化し学内外に周知することが何よりも重要である。残念ながら現状のままでは URL から IIST を理解することは難しい。既存二研究科の教育研究活動、教育組織などとリンクした URL コンテンツを整備すること、コロキウムなど IIST 独自の取り組みを公開アーカイブ化して URL にアップロードすること、などは現実的で早急に実現できる整備内容である。IIST の設立経緯を勘案すると、今後しばらくは理工学・情報科学分野を中心に IR と DS の研究教育を進めることとなるが、IR についてはさらに生命科学へ展開する可能性があり、DS は全文理科学分野に軸足を持つフィールドである。中長期的には学内の教育研究資源を利用した総合大学として IIST 研究フィールドの水平展開も今後の戦略に位置づける余地があり、今後に期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。